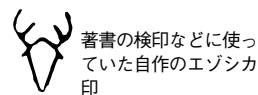


更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



えぞまつ豆本『シベリアの旅』



シベリア旅行の手記



花束を受け取り一緒に写真を撮る



シベリア旅行の資料など

『えぞまつ豆本第十巻 シベリアの旅』

1969(昭和44)年6月、更科はソビエト連邦共和国(当時。以下「ソ連」)のナホトカ、ハバロフスク、バイカル湖などを巡るシベリア旅行に友人と出かけました。更科、初めての海外旅行でした。

横浜港から出航する船に乗るため、千歳空港から羽田空港まで飛行機で行くことになり、高倉新一郎夫婦や友人たち、更科の家族は、千歳空港まで見送りに行くことにします。更科は「いっぱいしの海外旅行風景だ」とはしゃぎますが、みんなが千歳空港行きのバスに乗り込んだ途端、搭乗する飛行機が「悪天候のため欠航」となる知らせが入るといふハプニングに遭います。しかし天候は回復し、無事にその日の飛行機に乗ることができました。

横浜港から出航したソ連の船「パイカル」号は、ナホトカに到着します。更科たちは、ホテルからナホトカの市役所がある丘に向かいました。広場で更科たちは、2人の娘たちに「一緒に写真を撮らないか」と話しかけると、娘たちから1束のハマナスの花をわたされました。更科はたった一つ知っているロシア語で「スパシーボ」とお礼を言います。もらった花束のお礼にお返しをする物を持っていなかった更科が、ポ

ケットに入っていたガムを差し出すと、娘たちは「スパシーボ」と微笑み返します。更科は「たった一つ通じ合った言葉が、こんなにも人間を明るく温かくするものだろうか」と感じました。

別なところでは更科が、通訳を兼ねた案内役の大学生に「ソ連の雀はロシア語で何とって鳴くの?」と質問します。青年は「雀はチリツクさ、鳥はガアウク」と答え、更科は「そんなら日本の雀や鳥と話ができるね」と返します。更科は「勝手に国境など決めるから、人間同士で言葉が通じなくなり、意志の疎通が欠けてくる愚かさをくりかえすのだ。利巧(りこう)そうで人間が一番野蠻(やばん)だな」と思います。

更科がシベリアに魅力を感じたのは「アイヌ文化の香りの中には、意外なほど近接している日本文化の影が少なく、むしろ大陸文化の臭いが濃厚に感じられたから」でした。

このシベリアの旅を散文詩にして、文芸雑誌『北方文芸』昭和50年1月号に発表します。これに解説的な小文をつけたものが、えぞまつ豆本の会から『えぞまつ豆本第十巻 シベリアの旅』として、1978(昭和53)年8月に発行(非売品)されました。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

★特集展示

『楽しみもう！スポーツの秋』

10月14日の「体育の日」にちなんで図書館では、これからスポーツを始めようとする方向けの初歩的な内容のものから、普段スポーツに親しんでいる方にも参考になるもので、各スポーツ競技について知る事ができる資料を展示します。

少しずつ寒くなるこの時期、軽くストレッチから始めて、体を温めましょう！

▼場所／特集展示コーナー

▼期間／10月1日(火)～10月31日(木)

★10月27日～11月9日は2013(第67回)読書週間

今年の標語

「本と旅する 本を旅する」

新刊案内

- 「執着 捜査一課・澤村慶司」 堂場 瞬一／著
 - 「大地のゲーム」 綿矢 りさ／著
 - 「かつて誰も調べなかった100の謎」 堀井憲一郎／著
 - 「漂白される社会」 開沼 博／著
 - 「巨大戦艦 大和」 NHK取材班／著
 - 「妖怪旅行 水木しげるロード 遠野・京都」 Suniwa／編集
 - 「旭山動物園ARどうぶつ図鑑」 旭川市旭山動物園／監修
 - 「子どもの心を育てるコッBOOK」 白尾 直子／著
 - 「犬川柳 柴大地獄変」 Shiiba編集部／著
 - 「猫川柳 だら猫☆ロック」 猫川柳編集部／著
- たくさんのお待ちはお待ちしています！

知られざる大鵬

佐藤 祥子／著



1月に逝去した「昭和の大横綱・大鵬」。32回の優勝は歴代1位。国民栄誉賞を受けた大鵬の逸話を、芳子夫人に聞いた数多くのエピソードと、綿密な周辺取材により描き出したご自身のノンフィクション。家族や弟子、友人たちへの取材を通して「人間大鵬の素顔」に迫る！

おすすめの新聞

自然ふれあい行事 参加者募集中！

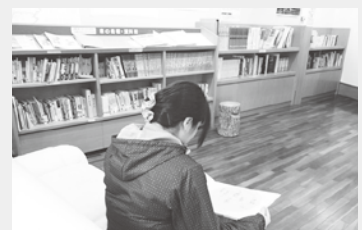
阿寒国立公園の自然環境を実感してもらうための行事を開催しています。今回は、一般開放されていない玉川大学演習林内に広がる釧路川沿いの湿地を歩きます。解説を聞きながら、一層、理解を深めましょう。

- ▶期日／10月5日(土)
- ▶集合／美留和農村公園
- ▶参加費／300円(保険代)
- ▶定員／15人(先着順)
- ▶講師／玉川大学農学部技術指導員・金井秀明氏

※申し込み・問い合わせは、電話で受け付けます。ホームページもご覧ください。



昨年の春に行った同様の行事から



約830冊の本があります

紅葉した木々の中を歩くにも気持ちがいい時期です。そして、読書を楽しむにも絶好の季節となりました。実は、当センターでも圖書の貸し出しを行っていることを、ご存じでしょうか。どうしても、植物や動物、科学系の本や図鑑、アウトドア系の書籍や雑誌類が多くなつてしまいがちですが、

秋です！ 森歩きと読書はいかが？

秋です！ 森歩きと読書はいかが？

気に入った本が見つかったら、読む場所にもこだわってみませんか。もちろん、ご自宅に帰っていただきたい構いませんが、館内にもおすすめスポットがあります。2階は窓に面してテーブルと椅子が置いてありますので、ちょっと目が疲れたら外に広がる森の緑を見ることが出来ますよ。コーヒーやお茶も用意してありますので、カップ片手にソファでくつろぎながらの読書なんてことも。もう少し寒くなってきたら、EMC自慢の暖炉に火が入ります。時間を忘れて、ゆっくりお過ごしください。

川湯エコミュージアムセンター(EMC)

☎483-4100 url http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 10月は8:00～17:00開館(無休)